

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		06 02 02	中期総合計画主要施策番号		1-03	担当課	部・課	環境部 水大気環境課		
事業名		排出源監視指導事業(大気)					内線	2761		
							E-mail	mizutaiki@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	工場・事業場からのばい煙等による大気汚染を防止し、良好な大気環境の保全を図るとともに、人への健康影響の未然防止を図る。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] ・大気汚染物質について、県内全測定局で光化学オキシダント以外は環境基準を達成している。 ・建物の解体等に伴うアスベストの飛散に対する苦情、廃棄物処理施設からの飛散に対する周辺住民の不安がある。 [原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・光化学オキシダントが高濃度になる原因について、県外からの広域的移流もその一因である。 ・国内で使用されていないとされてきたトレモライト等3種のアスベストの使用が確認された。またアスベストを使用している建物の解体が今後増加されると予想される。 [課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] ・排出基準を遵守するよう工場・事業場に対する監視指導を行う必要がある。 ・アスベストの大気中への飛散防止を図り、健康被害を未然に防ぐ必要がある。								
		事業内容	・大気汚染防止法等に基づく工場・事業場・特定粉じん排出等作業の届出の審査、立入検査による監視指導を行う。 ・アスベストについて事業所周辺大気環境調査を行うとともに、市街地の一般環境における環境モニタリング調査を行う。							
		実施期間	S43 ~	根拠法令等	大気汚染防止法、公害の防止に関する条例					
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
工場・事業場におけるばい煙等の排出基準やアスベスト排出等作業における作業基準が遵守され、その結果大気環境の汚染の未然防止を図る。		・ばい煙発生施設7443施設のうち、その1/4に対して立入検査を行う。 ・立入検査した工場、事業場からの排出基準超過がないこと。 ・アスベストについては全ての排出等作業届出に対して立入検査を行う。			・ばい煙発生施設立入検査を延べ1881事業所(25.3%)で実施した。 ・立入検査した全ての工場、事業場において排出基準超過はなかった。 ・届出のあった全てのアスベスト排出等作業について立入検査を行い、飛散防止が図れた。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下			
事業コスト	区 分			19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	9,725	9,316	9,022	国庫・県単 県単			
	決算額 (B)		千円	9,524	8,988	—	実施方法 直接			
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	9,524	8,988	9,022	歳出即別内訳等			
	概 算 人件費	従事する職員数	人	17.00	17.00	17.00	需用費 2,004 使用料・賃貸料 6,984			
	概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	130,904	130,849	130,555	(単位: 千円)			
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	ばい煙発生施設立入検査(延べ)		事業者	2,098	1,757	1,800	・事業所周辺大気調査及び解体工事におけるアスベスト大気調査(計24件)を実施した。			
	特定粉じん排出等作業立会い		件	263	124	150				
	アスベスト環境モニタリング調査		地点	12	6	6				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・近年、光化学オキシダントやアスベスト等の問題に対する県民の関心が高まっており、事業のニーズが増加している。 ・大気汚染防止法に基づく法定受託事務である。 ・行政による監視指導、立入検査は必要であり、他に有効な手段はない。 ・アスベストの一般環境中の濃度は低いため、モニタリング地点を見直し、効率化を図った。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		・光化学オキシダント対策については、工場・事業場等に対する監視指導、立入検査を強化し、排出基準の遵守を図る必要がある。 ・アスベスト対策については、排出等作業に対する届出の審査及び立入検査を引き続き的確に実施し、作業基準の遵守による大気中への飛散防止を図る必要がある。							